

2024 教育長との懇談

9月18日、高教組と合同で風張教育長と懇談を行いました。県教委からは、他に長内理事と早野次長が出席。県教組からは、田村委員長、長内副委員長、森山書記長をはじめ9名が参加し、教員評価の問題、部活動問題、子どもアンケートのことなどについて意見を交わしました。

★人事評価制度について

高教組

昨年から人事評価制度の給与反映が全面実施となったが、結果があまりにもひどかった。教育長さんから「どこがまずいのか直していかないとダメですね。」というコメントをいただいた。しかし、今年も管理職の昇給割合と教諭の昇給割合は差が大きい。今年もまずかったのではないか。また、昨年もお願ひしたが、校長・教頭をまとめないで、それぞれで人数を出していただけないものか。

教育長

校長・教頭が一緒になっているというだが、そもそも、こういう資料を他県では作っていない。事務局がよく対応してくれていると思っているが「組合さんの方からは、そういう風に見られてしまってるんだなあ。」という思いがある。管理職をひとくりにするのは「あまり個人的なことが分かってもいいことではないのではないか。」ということもあると思う。評価は「適正な評価をして下さい。」と言い続けるしかないと思う。

高教組

わたしたちの評価は校長・教頭がしますが、管理職の評価は教育委員会だ。つまり教育委員会の管理職評価が高いということだ。評価する人数を示しているにも関わらず教諭はそこまで届いていない。

早野次長

上限の人数なので、そこまで必ず付けなきゃいけないというわけではない。評価基準に基づいて絶対評価で行われた結果だということだ。

教育長

結果として、そうなってしまったことについて、何をどう言えばよいか非常に難しい。正しい評価をしていただくということが前提なので。

県教組

義務制の方も管理職と教諭の差が大きい。法律の関係で実施しなければならないというのは分かっているが、教職員にはなじまない制度だと思っている。1年や2年で子どもの成長や教育の成果が測れるものではない。行事や生徒指導など教職員がチームで進めなければならないのに、この制度は教職員の分断を生む危険がある。これをやって、実際に効果・成果は上がっているのか？

現場では、効果や成果の話を聞いたことがないし、高い評価をもらっても人に言えない。周りの人から助けてもらって得た評価なので。1人で得た評価じゃないので、逆に気まずい雰囲気だ。

教育長

「良かった所」とか「がんばってほしい所」とか、上司と話し合っ、て、よりよい仕事をしてもらおうというのが一番の目的だと思う。給与面に影響があることについては、何も結果が生まれなければその必要性もどうなのかなあと思うところはある。評価結果を開示しながら、上司と職員がコミュニケーションを図り、いい職場環境を作って、やる気を起こしていただくというのが人事評価に求められているものだと思う。

県教組

それは、給与反映する前からやっていた。むしろ、以前の方が対応が丁寧だったと感じている。

県教組

一番恐れているのは、協力・協同が徐々に蝕まれていくということだ。「誰かがAなんだなあ。」という疑心暗鬼。本当にこういうことをやっていい教育になっていくのだろうか。いい職場になっていくのだろうか。先生方は働きやすくなるのだろうか。是非考えていただきたい。

教育長

法律で決まっていることなので、なかなか難しいですね。

★部活動について

県教組

新たな指針の中で、外部指導員について詳しく書かれているが、市教委では予算が足りなくて雇用できないとのこと。県からの補助で増員することはできないのか。

地域移行がまだまだ進んでいないし、指導者の確保もできていない。野球部を担当しているが、中学生になると高度になってくるので、指導のスキルがある人でないとチームを作れない。じゃあ、誰が指導するのか？やれる人となると教職員になってしまう。勤務時間が終わったら「クラブの指導に行ってきます。」と言えるように働き方を考えてほしい。部活がないのに7時まで居るような職場では、部活の指導は困難だと思う。

長内理事

全国的にも指導者の確保が困難で学校の先生方に頼っているのが現状。行政でどんな支援ができるのか、これからいろいろ進めていきたい。

教育長

「土・日は学校で部活はやらない。」とか「最後の目指す所はどうあるべきか。」等、何らかの方向性を示してほしいということを校長先生方からも言われている。私たちの中でも指導主事の先生方にいろいろ研究してもらっている。ただ、クラブチームが中体連に参画してくると、運営は学校の先生がやっているのだから「なんでクラブチームのことまで自分たちが…。」という問題も出てくる。

県教組

実はサッカー界がそうになっていて、自分の地区では、クラブチームが学校よりも多い。運営は学校の先生なのに参加はクラブチームが多い。「競技委員長とかやる意味があるのか？」という意見も出ている。教育長さんのおっしゃる通りだ。

教育長

国の指導に基づいて総合的に考えないといけない。例えば、人材バンクに登録し、お金をもらいながらやれる仕組みを作るとか。部分的なことだけやっても解決しない問題だと痛感している。

長内理事

スポーツ振興と学校体育との関連など構造的な問題もある。市町村をサポートするとか私たちにできることがあると思うので、いろんなことを積み上げて変えていきたいと思っている。吹奏楽とかの文化部も含めて。



この後、高教組より公務支援システムに関わるお話がありました。割愛しますが、県教組からは田村委員長から発言がありました。

県教組

青森市では職員にクロームブックが渡されているが、オフラインになっているため、ネットの閲覧ができず、ネットで資料を集める場合など2度手間、3度手間となる。市との交渉でネット環境を整えてほしいことを要求しても費用の関係で見通しが立たないとのこと。教育DXを謳うなら各市町村へのフォローもお願いしたい。

★教職員と子どもアンケートについて

県教組

去年、今年と教職員と子どもに対してアンケートが行われたが、アンケートをとった後のコメントなりアクションがない。校長先生も「全然反応がないんだよ。」と話していた。アンケート結果は1000ページ。これを生かしてほしい。知事がアンケートを取ることが正しいかどうかは別にしても、かなり切実な内容が生々しく出てきている。せっかく「学校の幸せ推進室」が作られたのだから、アンケートの声を生かせるように懇談の場を設けてはどうだろうか。

教育長

アンケートには、私たち教育委員も全部目を通した。取りっぱなしということではなく、幸せ推進室でも出来るところは取り上げて、アクションプランにも生かすようにしていきたい。

県教組

アクションプランや基本大綱も見たが、アンケートを書いた人たちにメッセージとして送られていない。教育委員会では一生懸命やっているんだろうけど、それが現場の人達に伝わっていない。励まされるような返答がない。

早野次長

有識者会議の中でテキストマイニングを使ってまとめたものを公表している。政策の参考にするためにアンケートを取り反映させるようにした。

県教組

アクションプランにどう反映されたのか、どこにそれが書かれているのか疑問。無理なら無理でもいい。そういう応答もない。一生懸命書いたのに何の反応もないからがっかりしている。双方向になっていない。

双方向になるような窓口を開いてほしい。せっかく「幸せ推進室」を作ったんだから。子どもも教師も幸せになれば、不登校も教員離れも減ると思う。幸せのために知恵を出し合うのが必要ではないか。

教育長

チームは一生懸命やっている。専任6人の他に25人を併任させている。現場を回って聞いた声を共有しながら、何が出来るか、すぐにできるものは何かを考えている。何もやっていないんじゃないかと言われると、私たちのモチベーションも下がってしまう。文書関係の軽減等は、校長先生方からも喜ばれ、その声を聞いてまた張り切っている。時間がかかるものもあるので、その辺は分かってほしい。

教育長

今回のアンケートについては、賛成はしていなかった。学校通しで実施したら先生方に負担がかかるだろうし、実施の決定が、夏休み直前でアンケートの内容も把握できていない状態だったから。また、各教育委員会があるので、そこを無視してやるわけにもいかない。「やるんだったら教育委員会通しでなく、マスコミ等を通してそちらの責任で。」ということで実施されたのが実情。知事が「学校をよくしたい。」という思いの中でやっていることなので、そこは私たちの方でも声を吸い上げて、知事側からの提言がなくても教育委員会でやれるものは速やかにやろうというスタンスでやっている。

県教組

詳しい内情が今初めて分かった。今のお話のように「こうやってやってますよ。」というメッセージを是非発信して欲しい。教育委員会と現場が応答しながら作っていくことが必要だ。教員を増やすのは大変だけど、仕事は減らせる。知恵を出し合い、いろんな意見を聞くことが大切だと思う。

★教員採用試験の日程について

県教組

採用試験の1次試験が中体連の夏季大会に重なった。せっかく重なりを回避して実施してきたのに。諸事情はあると思うが、今後絶対ないようにしていただきたい。

教育長

試験日は東北で日程を合わせている。「いつ」というのは間もなく決まると思うので、決まった時点で中体連の事務局に速やかに連絡したい。今回もそのつもりだったが、重なってしまったと聞いている。試験日は変えられないので、中体連の日程を変えるようお願いするように担当に話した。